

## 平成29年度第1回秋田県建設業審議会の概要について

### 1 審議会の開催日時及び場所

平成29年4月26日（水）午後1時30分から午後3時30分まで  
秋田地方総合庁舎5階502・503会議室

### 2 出席した委員の氏名

長岐和行、及川洋、松本安彦、小玉喜久子、菅良弘、村岡淑郎、阿部公雄、石川武清（委員14名中8名出席）

### 3 議事の概要その他審議会の経過に関する事項

#### (1) 議事録署名委員の指名

長岐会長により、議事録署名委員として、及川委員及び松本委員が指名された。

#### (2) 審議

##### 「秋田県建設業審議会担い手確保・育成小部会中間報告について」

秋田県建設業審議会担い手確保・育成小部会部会長である川上洵氏（秋田大学名誉教授）及び事務局から、小部会が先般とりまとめた「建設業の担い手確保・育成の具体的な方策等について」（中間報告）の内容を説明した後、意見交換を行った。

また、次回の審議会において、小部会からの最終報告を踏まえ、県あて答申することとした。

##### 【質疑応答・意見等の概要】

委員： 労働政策の立場では、建設産業における処遇の問題や女性活躍についてはどのように考えるか。

委員： 高校生の県内就職を促進するためには、高校3年生向けの対策では遅いので、高校1・2年生に向かってきちんと企業情報等を提供していく必要がある。

賃金格差をどうするかという問題もあるし、女性と高齢者の活躍促進も待ったなしの状況である。

委員： 受注者側ではどのように考えているか。

委員： 県内の建設業団体は地域毎に8団体あるが、それぞれ地域の特性等を踏まえて担い手確保・育成に取り組んでいる。

近年では、県の支援事業を活用し、高校生向けのガイドブック作成などに取り組んでいるが、そうした取組には費用がかかる。ぜひ、現

在の支援事業を継続してほしい。

委員： 県内の建設産業の担い手確保・育成を進めるための中間報告をとりまとめたことにご感謝します。

一番の問題は、処遇改善だと考えている。国や県で設計労務単価を上げていただいているが、それでも足りない。せめて2万円程度は必要というのが実感だ。

また、被災地3県との賃金格差により、被災地の工事に参加した方々が県内に戻ってこないという問題が生じている。

委員： 一定水準の賃金が保障されることが大切というのは、建設業に限らず、全産業共通の課題なのだろうが、もう少し設計労務単価を上げて欲しいということか。

委員： せめて県内の製造業と同水準の賃金を支払えるようになればよいと思う。

委員： 若者が就職を決めるときの要素は何かというと、やはり賃金と休日だろう。産業が魅力的かどうかはそこに尽きると思う。

委員： そういう意味でも、先般の品確法改正は、我が業界にとって本当にありがたいことだった。

委員： 女性の活躍促進が重要ということだが、この点はどうか。

委員： 小部会からの中間報告をととても興味深く聞いていた。

今は、自衛隊が女性を積極的に採用・活用している時代である。

建設業でも女性活躍に取り組んでいかなければならないし、女性が活躍できる分野があるのではないか。

また、男女で賃金格差があるとすれば、その点も解消していかなければならない。

委員： 例えば、重機オペレーターやCADなどは比較的女性が多い職種であり、男女問わず活躍できる。

また、建設業の場合は、同じレベルの技術者であれば、男女で賃金に差はないのが一般的であり、意欲のある女性を積極的に採用していきたい。

委員： 建設業は女性が活躍できる業種であるということを積極的にPRしていくということが大事なのだろう。

委員： 高校入試の倍率をみると、工業高校は大変人気がある。人気があるのになぜ建設業に就職しないのかということに疑問を感じる。

やはり、賃金など処遇の問題なのだろうか。

- 委員： 建設業界はPRが下手である。もっと頑張っていけないといけない。
- 委員： 国の担い手3法改正、そして県の小部会の中間報告とりまとめと、本当にありがたいと思っている。
- 私が所属する業界でも、一昨年、県の支援を受けて高校生向けに業界のPRをさせていただいたが、せっかくガイドブックやDVDなどを作成しても、単に郵送するだけでは全く効果はなく、直接高校を訪問し訴えていけないといけないということがよく分かったので、今後はそういう姿勢で取り組んでいきたい。
- 若者の早期離職の問題については、高校生が社会を良く知らないのは当たり前で、ミスマッチが起きるのはしょうがないことだと思う。生徒が社会に直に触れる機会をもっと創るべきだろう。
- また、若者の早期離職は建設業に限ったことではないので、ミスマッチにより早期離職した若者をワンストップで受け止めて次の職場につなげていくような仕組みができないだろうか。
- 大学生にしてみても、果たしてどれだけの卒業生が秋田に残っているのだろうか。県内就職をした際に助成金を出すような支援も一つの方策だろう。
- 一方で、県内の大学等に配置されている就職コーディネーターが県内企業を良く知らない場合があった。お会いして話をしてみたら、秋田県出身者でなかったということもあった。受け入れる側、送り出す側双方にそれぞれ課題があると思う。
- 週休2日制についても取り組まなければならないが、工期の問題があるため、余裕のある工期で公共工事を発注していただけるとありがたいし、ICTによる生産性向上に関していえば、公共工事発注者に提出する書類の電子化なども進めていく必要がある。
- 委員： 昨年、工業高校で出前講座を実施したが、30年以上も前の設備・方法で測量を教えていることにびっくりしてしまった。高校側も何らか対策を講じないといけない。
- 委員： 学生の多くは県内志向である。本当に県内に就職したいと思っている。休日が少ないのは建設業に限ったことではないのだから、後は、県内建設企業がしっかりと収益を上げて賃金を増やしていくということだろう。また、測量は女性が活躍しやすい分野の一つだろう。
- 委員： 測量業界でも、同一の資格であれば、男女に賃金格差はない。ぜひ女性に来てもらいたい。

委員： 生徒や学生が正しい企業情報を見て取れる仕組みが必要である。

委員： 高校生だけでなく、大学生もぜひ来てもらいたい。人口減少対策として大学生のAターンは極めて重要である。

委員： 我々建設産業が、他産業に負けずに、しっかりと働き方改革を進めていかないといけないということだろう。

### (3) 報 告

#### 「入札参加資格審査を行う工種の追加について」

等級格付を行う工種としての解体工事業の追加について事務局から報告がなされた。なお、委員から特に意見等はなかった。